

令和6年度 北栄町農業振興基本計画策定委員会 会議録

会 議 名	農業振興基本計画策定委員会
日 時	令和7年3月7日（金） 19時00分～20時45分
場 所	北栄町農村環境改善センター 大会議室
出 席 者	委員11人、アドバイザー2人、事務局5人
内 容	1 開会 あいさつ（竹原委員長） 2 協議事項 ①第2次農業振興基本計画の進捗状況の確認について（事務局説明） ＜●委員意見等＞ （▲事務局回答） ●生産者戸数、生産面積が減少している。 ▲国、県の事業を活用し、計画達成に向け取り組んでいるが、維持が現状。 ●給食の地産地消率がR6年減少した。要因はなにか。 ▲県内業者の撤退が原因。 ②地域計画について（事務局説明） ＜●委員意見等＞ （▲事務局回答） ●目標年度が10年後になっていないのはなぜか。 ▲北栄町農業経営基盤強化促進基本構想の最終年度(R10)とした。基本構想の見直しに伴って変更する。 ●目標地図に青で塗ってある農地で遊休農地となっているものがある。 ▲遊休農地の判断は夏の利用状況調査で判定し、草が繁茂し耕作不能と判断した場合遊休農地としている。単に使っていないから遊休農地という判断ではない。 ●「項目4の地域内の農業を担う者」の属性の説明をお願いします。 ▲属性は、表下に記載のある注1のとおり。基本構想水準到達者は所得が380万を超える方。 ●灌漑施設の老朽化の記載があるが、ひねるだけで水が出るのが北栄町のいいところ。北栄町だけの問題ではないが10年20年後はどうなるか。維持できるか。農業を辞める人が増えて負担ができなくなる事が心配。新規就農者は水が出て当たり前で就農する。 ●農家が減ってきているということは大変な問題。灌漑施設は供用開始してから30年が経過している。老朽化による維持管理が問題。施設更新の時期が来る。一部の農家だけで施設管理ができるか。大栄地区だけではなく琴浦も含めた大きな問題。国、県がどこまで考えてくれるか。 ●倉吉市久米が原でも取り組んでいるが、西瓜の時期には改良工事ができないためなかなか進めない。 ●北条砂丘でも同様の問題がある。地元の方々がどう調整をしていけるか。県としては応援する立場、地元がどうされたいか。県としてはどんな事業で進めるかを考える。 ●ハウスがある人は水がいる。農業を辞めようとする人はいない。2極化と思う。農業者が減少するのは大きな問題、合意形成が難しくなる。本来であれば地域計画で地域を絞って農業をどうするかを考える必要がある。農地歯抜けの状況で話し合いをするのは難しい。 ●有害鳥獣・イノシシの被害が増加している。土下では狩猟免許を取得してもらって捕獲を進めることとしている。周辺集落を巻き込んで有害鳥獣対策が重要。 ▲鳥獣害対策は産業振興課に、生活安全にかかることは総務課が担当する。 3 その他 特になし。 4 閉会（竹原委員長）